

第22回 NHK全国短歌大会より

「特選作者の横顔と 選者からのメッセージ」

生

今年度のNHK全国短歌大会は、
新型コロナウイルスの感染拡大防止
の観点から、NHKホールでの公開
による開催を中止といたしました。

例年とは異なる形式のため、特選
作品の背景や選者からのメッセージ
などを、少しでもみなさまにお届け
したいという想いで作成したのがこ
の冊子です。今後の作歌にもお役立
ていただけましたら幸いです。

特選作者の横顔

自由題・題詠の特選一席に選ばれた作者の皆さまです。
受賞の喜び、大会への思いを作品とともにご紹介いたします。



池田はるみ選

忘れ得ぬ恨みあるらし百歳が百三歳の姉に
あかんべ

大分 阿南光彦



今回は五回目の投稿です。短歌の会や教室には通っていませんので、過去四回分の「入選作品集」が唯一無二の師です。いつも手許に置き、折にふれて開いています。

小池 光選

内腿の弾痕白くなりてさへ比島を語るなかりき
父よ

鹿児島 棚上 紀



一首でも秀作に選ばれたらと願っていたところでしたので吃驚仰天しました。そしてとても嬉しく思いました。入院中の私に代わり投稿予定歌の清書から投票までをしてくれた妻とともに喜んでくれました。

題詠一席

声出して泣くこと明日も生きることまだ一
歳の君に教わる

香川 藤川 晃子



明日という日を今日という日にすることが、少しだけしんどいと思うそんな時、心の内を三十一文字で表現することで、気持ちの整理をつけてきたように思います。

題詠一席

鉛筆をけずりはじめて匂い立つ生きてる木の香ひとり愛しむ

神奈川 堀越 幾也



感謝しております。円環的運動をなすのだと考えました。長女も次女も「すごいね、良かったね。お祝いを考えておきます」と喜んでくれました。

小島なお選

風を食べ宙に飛んでくレジぶくろ一枚五円
のお金にげる
神奈川 渡邊 洵



僕のおじいちゃんは、短歌でたくさんの賞をもらって本にもよく載っています。いつも片手にメモ帳を持って、思ったことをすぐ言葉に残しています。おじいちゃんは、僕の永遠のライバルです。

自由題一席

三枝昂之選

媪らのお国訛りが絡み合い通草の蔓は籠に
なりゆく
秋田 藤原 和男



特選の内定を頂き驚きと共に感激して家族と喜びを分かち合い、仏壇の父母の遺影に報告しました。一流の歌人の先生方に認められたことが何よりもうれしかったです。

自由題一席

斉藤斎藤選

絶食中に夫がこつそり食べしとふへビスコの
赤き一箱供ふ
福岡 瀬戸口 真澄



今回の特選内定はおどろきの一言です。短歌をはじめたきっかけは「サラダ記念日」だったと思います。その後、NHK学園の通信講座で学び、新聞投稿も始めました。

自由題一席

題詠一席

世界史の画面は過不足なく進むあの脱線が
先生なのに
福岡 広瀬 建人



今年は特にコロナ禍の中で身の周りのささいなことから、人類規模の壮大なテーマまで、立ち止まって考えることが多く、たくさんの短歌を作りました。その一つが選ばれて特別な一年になったと思います。

題詠一席

生国を出たこともなき母は今異国の人に介
護受けおり
栃木 青木 一夫



「NHK短歌」に投稿して四年目になりますが入選は二首のみです。久々のヒットで喜んでいますが。若い人には感性で勝てないので心に訴える歌を詠みたいと思っています。

題詠一席

薬局の袋有料そうなのだ生まれ変わったよ
うな感覚
愛知 牧 正吾



特選内定を伺いドーパミンが心身に喜びの感動を湧き上がらせてくれました。今も喜びの感動の渦の中に浸っています。家族は信じられない顔をして「おめでとー」と御世辞をいってくれています。

坂井修一選

ぎやぎやぎやと叫んでマスクを外したいわれ
のなかにもいるハクビシン 千葉 山口希代子



短歌をはじめたまきっかけは大学主催の生涯学習
の短歌講座の受講です。「ご自分の短歌を追求し
ていってください」という先生のことばは力に
なっています。

題詠一席

教科書に〈娘売ります〉立て札の写真のあ
りき母生れし村 山形 名取榮子



この度の内定のお報せにただただ驚いています。
すっかり自信をなくし、ほそぼそと詠んで行こう
と思っていたところでした。夫も大変喜んでくれ
ました。今後の励みにしたいと思います。

佐佐木幸綱選

目より下覆ひしままの授業にも笑ひは起る
六月の午後 茨城 菅野公子



この度は特選に選んでいただき、身に余る光栄
と感激しております。ひとり暮らしの父は私の
歌が公開されるのを楽しみにしているようで行
く度にいつなのかとたずねられます。

題詠一席

生駒嶺を撃つ稲妻を遠見つつあと一息の棟
上げいそぐ 大阪 森宗良富



五十三歳より十五年間、短歌講座の入門、実作
でお世話になりました。短歌という奥の深い日
本古来の言語文芸に、厭きもせず持続して来た
褒美かも喜んでおります。

俵 万智選

「別れた」とぼつりと告げし子のための食事
は普段通りに作る 愛知 西村愛美



思いがけない特選一席の内定の知らせをいた
き、ただただ驚いています。言葉の力は底知れ
ないと思います。今後も愛ある美しい短歌を目
指して詠んでいこうと思っています。

題詠一席

茶毒蛾の百匹ほどの幼虫を殺し椿の一本を
生かす 埼玉 渡部清枝



退職し義父と同居をした頃、心の糧として始め
ました。遅くに踏み入れた短歌の世界。蓄積の
不足を痛感しております。焦らず、自分らしさ
を失わず、最後まで作歌を続けたいものです。

自由題一席

自由題一席

自由題一席

寺井龍哉選

サンダルの君が小石につまづいて肩の向こうにユリカモメ飛ぶ
愛媛 梅原秀敏



昨年（特選二席）につづき特選一席をいただき天にも昇る夢ごちでおります。地元の短歌仲間がわがことのように喜んでくれて感謝しております。

自由題一席

永田和宏選

そのことに触れるやさしさそのことに触れぬ優しさ雨もやんだよ
群馬 石坂加津子



短歌は十七年前友人に誘われて始めました。NHK学園短歌講座の受講は、なにも知らない私にとって、現代短歌界と歌人の先生を知ることが出来た貴重な教材となりました。

自由題一席

東直子選

わたくしの月を見むとて裸眼にす海月のやうに呼吸してをり
徳島 岡本留音紗



コロナ禍の自粛の下、大学時代の友人八人でライン短歌を始めました。「短歌は楽しむこと」と認識しました。NHK学園短歌実作コースでは、諸先生方の御指導に目から鱗の思いでした。

自由題一席

題詠一席

「しばらくはまだ生きてますよ」ピンク色のブラウス買って風に見せたり
東京 西村佳津子



最後のご褒美嬉しいです。入退院を繰り返した年でしたので、この歌が詠め家族から「生きていてよかったね」と手をたたいてもらいました。一月になると卒寿です。

題詠一席

世界史の画面は過不足なく進むあの脱線が先生なのに
福岡 広瀬建人



小島なお選、松村正直選の一席も受賞させていただきます。

題詠一席

モーツァルトの鬢のやうな雲湧きて老人ホームはへお誕生会
埼玉 荻原信子



昨年に続き特選をいただけずとは思ってもよらず大変驚きました。コロナ禍にありましても退屈することもなく筆記用具さえあれば何時でも何処でも楽しめますので、本当に短歌を始め良かったと思っています。

穂村 弘 選

ウイルスの記事ひとつなき一枚を選りて折りたり端午の兜
岡山 加藤三雄



全国大会は、豪華な選者の方々と全国の短歌愛好家を抱いて、年々ゆつくりと流れる大変幅の広い「短歌の大河」の感じがいたします。

松村 正直 選

ウイルスの記事ひとつなき一枚を選りて折りたり端午の兜
岡山 加藤三雄



穂村弘選の一席も受賞されています。

題詠一席

「今朝生まれ亡くなりました」ゴーゴーと窓打つ風の音さへも消ゆ
千葉 熊田 恵



特選内定にとっても驚きました。日に日に喜びが増しております。夫はNHK学園の短歌講座のおかげ様と喜んでおります。できなくて落ち込む日もありますが、楽しみに続けていこうと思います。

題詠一席

世界史の画面は過不足なく進むあの脱線が先生なのに
福岡 広瀬 建人



小島なお選、永田和宏選の一席も受賞されています。

番組の放送予定

NHK Eテレ 「第22回NHK全国短歌大会」 2021年2月21日(日) 14時30分～15時30分

● 選者・小島なお・斉藤斎藤・穂村弘 ● 司会・星野真里(俳優) ● 朗読・加賀美幸子

※放送内容や放送日時は、特別番組などにより変更・休止する場合がございます。

自由題特選二席

池田はるみ選

読経終えしずかに僧侶振り向けば幼が立ちて拍手をしたり

神奈川

小室 誠二

小池 光選

身のこなし隈なく見えて観客のをらぬ相撲は古式めきたり

東京

竹本 賢治

小島 なお選

喜びを音符に記ししベートーヴェン山栗はいま花に満ちたり

島根

田中 勝美

三枝 昂之選

からだじゅう土の匂いになった頃夕焼け空に母の声する

神奈川

江連れいこ

斎藤 斎藤選

夕空と夜空のまざりあふ坂をバスにゆれつつ鼓動おちつく

大阪

三友 素子

坂井 修一選

夢叶い教師となりし孫よ今マスクの子らの瞳と語れ

愛知

原田 勝子

佐佐木幸綱選

志ん生の後志ん朝で口直し異なるも近し楽し親子よ

神奈川

篠崎 敏雄

俵 万智選

何気なく受け取るティッシュ日常は手のひらにまず戻りてきたり

千葉

森中 香織

寺井 龍哉選

大空に寒風受けて高き風糸巻きがほら君の手の中

長野

酒井千代美

永田 和宏選

夕光ゆうかりにラップの端をさぐるごと君のメールを読みかえしたり

千葉

篠崎実千代

東 直子選

ひさびさに木洩れ日ゆるる園に来て病む夫の言う小鳥探せり

東京

田中由美子

穂村 弘選

五線譜にはじめて音符を書くように君と話した春の教室

北海道

住吉和歌子

松村 正直選

絶食中に夫がこつそり食べしとふ〈ビスコ〉の赤き一箱供ふ

福岡

瀬戸口真澄

選者近詠作品とメッセーヂ

(敬称略 五十音順)

池田はるみ

雀から貰ふならこれと爺さまが選ぶ葛籠つづらはちひさい方で
爺さまに共感をせりさうよねえ持ち帰るなら軽くなっては

小池 光

橋のなかばに自転車とめて川を見るひとりの人がわれなりしかも
鼻の隆起強調されていたまじやカーブミラーにかほ写すとき

小島なお

あかるくてくらい心の秋が来て粘土のように眠れと声す
地図上の等高線の中央にカーソルを置く 遠いな神は

三枝昂之

東京はかすみの奥に沈みたりあんなにも遠い異国となりて
傍らに人がいることコーヒーが香ること机上がわれを待つこと

斉藤斎藤

家のなかで暮らした今日は家のなかをスマホは27歩歩いた
晩年の尾崎紀世彦めずらしく譜面通りに「また逢う日まで」

坂井修一

図書館にソクラテスひとり老いゆかむしはぶけば千の視線を浴びて
プラトンを育てられないソクラテス悲しもよ塵を踏んで出てゆく

2020年、自分に短歌があつてよかつたとつ
くづく思いました。日常が失われる辛さ、新しい
生活様式への戸惑い、先の見通せない不安。そんな
日々にあつて短歌を詠むことは、立ちどまって、
深呼吸する時間をもたらしてくれました。大会に
作品を寄せてくださったみなさんも同じような気
持だったのではないのでしょうか。マイナスをプラ
スに変えてくれるのが表現です。言葉でコロナに
負けないためにも、ぜひ一日一日を大切に、一首
でも紡いでいきましょう。

俵 万智

いつも会っていたひとに会い、いつも行っていた
場所に行くことができないうちのつらさを痛感して
います。異常な状況をしつかり把握するためには、
心のなかまで異常になつてしまわないように気をつ
けることが大切だと思います。心身の健康に気をつ
けて、ゆっくり古典を読んだり、自分の歌を見
かえしてみたりすると、また前を向く力につながる
でしょう。不安になるのは仕方がないけれど、不安
によつて気持ちや行動が鈍くなつてはまずい。そう
言い聞かせながら過ごしています。

寺井龍哉

佐佐木幸綱

千人に千のマスクが買われゆき二千の耳をゴムで引つ張る
この人はマスクが顔になって寝る時たぶん外さないのだ

俵 万智

トランプの絵札のように集まって我ら画面に密を樂しむ

第二波の予感のなかに暮らせどもサーフボードを持たぬ人類

寺井龍哉

居眠れるわが手のうちの『夢十夜』君は奪ひぬ指をそろへて
君はここでまぶしさうに靴を脱ぐだらうたとへばそこへ両手をついて

永田和宏

ハーマイオニーをやうやく覚へたわたくしをこの幼子が褒めてくれるも
濃厚接触われに許さるるただひとりこの幼子を高く抱きあぐ

東 直子

旧石器時代の悩みわからないけれど夜明けをみたことはある
電灯をつけっぱなしで朝だったもう叱られることはないのだ

穂村 弘

友だちが遠くなるのは何故だろう銀河と銀河と銀河のように
海軍のカレーライスを試食する僕らに夏が近づいてくる

松村正直

皮を剥くまでは寡黙なびわの実のそれなら僕も言わないでおく
顔面に種ざくざくと突き刺してひまわり枯れてからがきれいだ

二〇二〇年という年は、多くの人々にとって、新型コロナウイルスの感染爆発の年として記憶されるはずです。私たちの日常生活も大きな意識の変更を迫られました。不要不急の外出を控えよとのことで家籠りを余儀なくされ、孤立感を深めた方も多かったです。しかしまた、このような時だからこそ、作歌を通じて、多くの仲間、読者と繋がっている安心と喜びを実感した方も多い筈です。私たちが抱えている時代の困難を、作歌を通じて共有し、共に乗り越え、そして遠くから、このコロナ禍からの解放を喜び合いたいものです。

永田和宏

コロナ禍で短歌のイベントや歌会に参加できない方も多いと思います。そんな今だからこそ、じっくりと腰を据えて先人の歌集を読んでみてはいかがでしょうか。私は近藤芳美の全二十四冊の歌集を読んだのですが、有名な歌以外にも印象的な作品がたくさんありました。

作者の考え方や生き方が滲み出た歌は、巧拙を超えて訴えかけてくる力を持っています。そうした方に直に触れることは、必ずや皆さんの歌作りにも良い刺激となるでしょう。

松村正直

選評 I 〱 上位作品から 〱 池田はるみ・三枝昂之

池田 三枝さん、よろしくお願ひします。最初に今回の選歌を終えてのご感想をお聞かせください。三枝 はい、今年は二月からコロナウイルスの感染が広がって特殊な一年でした。その特殊さが短歌のような暮らしの文芸には影響します。

池田 私も実作者ですから日々歌を作るのですけれども、自粛して家に居ることが多くなり、人と会うことが少なくなりました。社会から情報として入って来るのはテレビからコロナのことばかり。だから、何処から歌の種を見つけて来るのが難しかったです。歌うものって何処にあるのだろうかと考えてしまい、閉塞感を持ちました。

三枝 おっしゃる通りです。日本の一億人が共通体験したことです。自分の体験の特殊性が見つけられないわけです。だから工夫が必要で、い

つもの暮らしの素材を歌うときよりも十倍も百倍も難しかったと思います。だけど、こんなにみんなが苦しんで生活したことが短歌に反映できないのは悔しいじゃないですか。だから、どんどん歌って欲しいと思います。今回のNHK全国短歌大会の中にもコロナ禍でのいい歌がありました。

身のこなし隈なく見えて観客のをらぬ相撲は
古式めきたり 東京 竹本賢治

僕はコロナ禍という言葉を使いたくないんです。でも使わないとわからなくなってしまうこともあります。池田さんは如何ですか。

池田 私も今年の選歌で、その点をすごく迷いました。コロナという背景が無ければ。観客のいない相撲って何なんだろうと思ってしまう。

三枝 この歌はどうでしょう。

世界史の画面は過不足なく進むあの脱線が先
生なのに

福岡 広瀬建人

オンラインの授業ですが、わかる、わからないの境界線にあります。わかってくれると読者を信頼して歌っても良いと私は思います。

池田 そうですね、そうすると心が開けるように楽になります。歌いやすくなります。

三枝 コロナと

の距離をどういうふうにとるか
を選者も作者も
まず意識するの
です。ある意味
では後世に残る
短歌大会になつ
たと思います。
作品集も後世に
残る証言集にな
るでしょう。

池田 私は、コ



ロナという状況下の閉塞感の中で、どういうふう
に時間を過ごしていったら人が幸せになるかなあ
という観点を持ちました。だから、そういうふう
に歌っているものってないかなあと思いました。
そうしますと一番社会的な影響を受けていないご
老人とお子さんが無垢なままで対象として現れて
来ました。自由題特選の一席に選んだのが、この
歌です。

忘れ得ぬ恨みあるらし百歳が百三歳の姉にあ
かんべ

大分 阿南光彦

戦争やいろいろなものを体験したけれども、コロ
ナの中では真っ新なままで、百歳と百三歳なのに
喧嘩しているという、この境地に至られたという
ことが、嬉しかったです。なぜ嬉しかったかとい
うと、日本もまだ余力があるのだなあと感じまし
た。百歳と百三歳がこんなに明るく喧嘩してくだ
さる余力があるということが嬉しかったんです。
三枝 どんな非常時でも日常生活というものがあ
る、コロナの時代でも日常生活があって、日常生
活の面白さを池田さんは選択したのかと思います。

読経終えしずかに僧侶振り向けば幼が立ちて
拍手をしたり 神奈川 小室誠二

「拍手をしたり」というワンショットも暮らしの中のちよつとしたいい話。こういう非常時だから余計に大切だよということをお池田さんは選歌で示してくださいました。僕が自由題一席に選んだ

媼らのお国訛りが絡み合い通草の蔓は籠にな
りゆく 秋田 藤原和男

これもみんなが仕事しながら屈託なく楽しそうにお喋りをしている空気が伝わって来て、こういう時代だからこういう歌を取りたいと思いましたが、「絡み合い」が「お国訛り」にも掛かるし、「通草の蔓」にも掛かるんです。両方を繋げているという点が、面白いです。

池田 次は三枝さんが題詠の特選に選んだ歌です。
生国を出たこともなき母は今異国の人に介護
受けおり 栃木 青木一夫

三枝 生国を出たことのないお母さんが異国の人
の介護を受けています。今の介護の現場が歌われ
ていて、ある世代までの普遍的な暮らし方と、今

の労働事情が一首の中でうまく生きています。
池田 ながしい時間が一首の中に湛えられている
んだらうなということが感動でした。

声出して泣くこと明日も生きることまだ一歳
の君に教わる 香川 藤川晃子

私が題詠の特選に選んだ歌です。声を出して泣いて自然のままに生きる大切さを赤ちゃんに教わりました。簡単に作られているけど奥の深い歌です。
三枝 人間は歳を重ねるごとに複雑になってしま
いますが、一番シンプルなところに戻ると、こ
ういうことなんだと一歳の君に教えてもらった、自
分をリニューアルしなくてはいけないということ
とを一歳を通して発見したのですね。

池田 次は今回の作品の中から気になった作品に
ついて話をしましょう。
三枝 はい、まずは

「別れた」とぼつりと告げし子のための食事は
普段通りに作る 愛知 西村愛美

恋愛の終りという重大事を告げてくれた子ども、
ある意味、非常時ですよ。その非常時にどのよ

うに接するかといえ「普段通り」だというんです。この配慮が心に沁みるところです。僕はこの歌を読んで思い出した歌があるんですよ。

どれどれ春の支度にかかりませう紅い椿が咲いたぞなもし
北原白秋 『桐の花』

このようにお母さんが白秋に言います。このとき白秋は姦通罪で捕まって監獄から出て来て、しょんぼりしていました。何気ないことだけど、すごい配慮ですよ。それに近いものを西村さんの歌に感じました。気づかいの機微がとても生きた歌です。それから佐佐木先生の秀作の

卒業生一人担任われ一人閉校式に校歌をうたふ

北海道 藤林正則

事実だからこそ万感の思いが伝わって来ます。校歌が心に沁みるなんて言ったら万感の思いが消えてしまいます。抑えるから却って気持ちは一首の中で膨らみます。

池田 私が気になったのは

**そのことに触れるやさしさそのことに触れぬ
優しさ雨もやんだよ**
群馬 石坂加津子

何も具体は言っていないじゃないですか。それでいて、

やわらかく心に沁みて来る歌です。人が傷ついているときに何も触れないのがいいのか、ちよつと触れたほうがいいのか、そのところが機微って人生で一番難しいところ

ろかと思うのですが、そこを歌われた石坂さんは優しい人なんだろうな、お会いしたいなあと思いました。

三枝 四句目までを受けた結句が効いています。気づかいの機微という複雑なことが、こうして三十一文字にするとシンプルに提示できるんです。短歌って凄い力がありますね。

池田 この歌もいいですね。



モーツアルトの鬢かづりのやうな雲湧きて老人ホー
ムはへお誕生会

埼玉 荻原信子

三枝 ベートーヴェンではなくてモーツアルトといふところが、やわらかいですし、お誕生会の晴れやかさを活かしているのではないかと思ひます。

池田 あくせくした世界から離れた老人ホームの雰囲気合っています。それでは次に若い世代の歌を何首か見てみましょう。

風を食べ宙に飛んでくレジぶくろ一枚五円の

お金が逃げる

神奈川 渡邊 洵

九歳の方です。レジ袋が有料になつちやつたといふことを、この人はすごく敏感に感じていたんですね。「風を食べ」といふ言い方が若々しいです。最高に面白かつたのが「一枚五円のお金が逃げる」。ああ、せっかく買ったのになくなつちやつたと、面白がつて言っているところが、とても好きです。三枝 初句が面白いです。たぶん僕らだと「風を食べ」といふ言い方はしな思ひます。僕らは頭や理屈で考えるから。だけどこれ、レジ袋が風で飛んでゆくのを見て、直感で「風を食べ」といふ

たところ、頭でなくて感覚で場面を捉えています。感覚で捉えるということが若い人は出来るんです。松尾芭蕉が「童に学べ」と言っていたように、白紙になつて直感で物事と向き合っています。

池田 直感と言葉がすぐに結びつくセンスが良いですね。次は三人の選者の秀作で、十四歳の歌です。

テスト中木管楽器の優しさで拡がつてくる

かつこうの声

山口 藤井琴子

三枝 テスト中というのが大切です。みんな黙つて集中しています。生徒がいるのに物音がしないといふ空間にカッコウの声が広がるんです。カッコウの声に優しさを感じたのかも知れませぬね。

池田 金管楽器ではなく、木管楽器と感じたところが凄いですね。

三枝 そうそう、木管楽器がいいんだなあ。

池田 次は坂井さんの秀作、十歳の歌です。

友だちに長くあえないとさびしいなコロナコ

ロナと泣きたくなるよ

沖縄 金城光泰

三枝 コロナコロナと重ねたから不思議なオノマトペになりましたね。

選評Ⅱ 上位作品から 坂井修一・東直子

東 今日選ばれた歌について話をしましょう。

坂井 まずは私が自由題特選の一席に選んだ歌

ぎやぎやぎやと叫んでマスクを外したいわれ

のなかにもいるハクビシン 千葉 山口希代子

今年はずる自粛で減入っているわけですが、この歌には人間の本音が出ています。マスクで押し黙っているのも嫌だ、ハクビシンが自分の中にもいて、ぎやぎやぎやと叫んじやいたいと思う。けれども、そういう衝動を抑えながら我々は今年一年生きることが出来たですね。

東 迫力のある歌ですよ。インパクトでは特選の中でも一番でした。

坂井 自由題の二席の歌ですが

夢叶い教師となりし孫よ今マスクの子らの瞳と

語れ

愛知 原田勝子

やっぱりコロナに関係する歌です。おばあちゃんが孫を励ましています。「瞳と語れ」が良いです。次は題詠の「生」です。

教科書に〈娘売ります〉立て札の写真のあり

き母生れし村 山形 名取榮子

貧困が日常的にあった昔が、いきなり自分に引き付けられることになるという重い歌です。

東 リアリティがあつて、胸に迫る一首でした。

次は私が選んだ自由題の特選一席です。

わたくしの月を見むとて裸眼にす海月のやう

に呼吸してをり 徳島 岡本留音紗

コンタクトか眼鏡をはずして裸眼で見ようとすると、ぼろっとします。そのぼんやり感が今の気持ちや感覚を擬えていて、夜空が海に代わったような感じなのでしょう。ファンタジーなんですけど、

「海月のやうに呼吸してをり」に息苦しさを読み取ることができません。

坂井 ふわっとした優しさと、いま生きていることの不安が、比喩によつてよく描かれていますね。

東 次は自由題の二席。

ひさびさに木漏れ日ゆれる園に来て病む夫の

言う小鳥探せり

東京 田中由美子

夫が「あそこに小鳥がいるよ」と言つたと思うんです。小鳥が見つけられなくて「どこ？」つて言っている、なんでもないような夫婦の一場面なんですけど、ひさびさに病む夫と来られたという嬉しさを感じます。小鳥を探すことで夫婦の一体感を求める気持ちが見える。

坂井 調べが良くて、流れの良い歌です。さり気ない時間の中での貴重な時が歌われています。

東 では題詠の特選です。

モーツアルトの鬘かぶとのやうな雲湧きて老人ホー

ムはへお誕生会

埼玉 荻原信子

元気のある、楽しい歌で、老人ホームを舞台にしているところが良いと思いました。夏の入道雲か

と思うのですが、モーツアルトの鬘に喩えたことにユーモア

があります。お

誕生会を祝福感

たっぷりにか

れているところ

が良いです。

坂井 ベートー

ヴェンではだめ

で、モーツアルトの軽やかさがいいですね。老人ホームの中にドラマがあるんです。長寿の会が窓の外の風景と共にあるというところが好感を持てます、

東 今回はコロナが一つのテーマでした。憂鬱な気分なのですが、ユーモアを見つけたらという発想の転換ができた歌にはいい歌が多かったです。

ウィルスの記事ひとつなき一枚を選びて折り

たり端午の兜

岡山 加藤三雄



コロナの記事がない紙面を選ぶことで、子供たちにウイルスのない未来を与えたいという気持ちが表現されています。

坂井 「端午の兜」で終わるところも祝福と祈りが入っています。あと評判の良かった歌では、

**世界史の画面は過不足なく進むあの脱線が先生
なのに** 福岡 広瀬建人

東 オンライン授業です。「過不足なく進む」というのは良いことなのですが、人間味がなくなっ
てしまいます。そこを切り取ってきたところに作
者の発見があります。他には

**目より下覆ひしままの授業にも笑ひは起る六
月の午後** 茨城 菅野公子

授業中のマスクを詠んでいます。マスクをしてい
ても笑いは起きる、こういった状況でも笑うこと
はできるんだよと前向きに捉え、息苦しい中にも
楽しさ、明るさ、ユーモアを見つけて来るとい
切り口が良かったと思います。

坂井 「覆ひしままの」が直接「授業」に係るところ、
こういう省略の仕方が現代短歌の一つの特徴です。

東 社会不安の中で、自分はどう思ったのかを歌
うことが大切ですね。全体を通して、生きている
ことを楽しむ歌が多く、元気づけられました。

**からだじゅう土の匂いになった頃夕焼け空に
母の声する** 神奈川 江連れいこ

忘れがちな土の匂いのような素朴なものを独自に
表現されていて、いいなあと思います。

坂井 我々の日常というものは激動しているよう
に見えて、根っここのところはこういうところにあ
るのかも知れません。下句で大きな景に展開した
ところが上手いです。

坂井 他にも良い歌がたくさんあるのですが
絶食中に夫がこつそり食べしとふへبسコ
の赤き一箱供心 福岡 瀬戸口真澄

「供う」と「赤き」が効いています。

東 灯が点ったようですね。祈りを込めているこ
とがわかります。

坂井 ほんとうは食べちゃいけないかった。

東 絶食中だから。小さいときに食べて、ずっと
好きだったんでしょね。亡くなった今はいくら

でも食べていいよって感じですね。

坂井 完璧な人間の完璧な有様でないことが魅力につながることも多いですね。これなんか、ちよっと外れたことをやったんです。

東 食べてしまった夫の方も、供えている奥さんの方も、どちらの気持ちもよく伝わります。人間の可愛さが出てます。

坂井 そうそう、愛嬌って大事なんですよね。東 愛嬌という意味では



「しばらくはまだ生きますよ」ピンク色のブラ
ウス買いて風に見せたり 東京 西村佳津子

坂井 「風に見せたり」がいい。

東 他に見せる人がいなくて、風にでも見せようかという感じですよ。

坂井 この歌はどうでしょう。

茶毒蛾の百匹ほどの幼虫を殺し椿の一本を生
かす 埼玉 渡部清枝

多数の命を殺して一つの命を活かすという、我々が日頃行っていることを象徴しているようです。

東 「生」という題に真正面から取り組んでいますね。百と一という数詞の対比も効いています。

坂井 今回、歴史を扱った歌で悲しく、そして生きる厳しさが歌われている作品がありました。現代も未来も生きることも厳しいなあという気がしました。

東 コロナ以前にも厳しかったのに、コロナが加わって不安とともに生きなければならぬ。結局は、人間の愛おしさみたいなのが肝になるのかなと思います。

坂井 そうですね、明るい歌い方の中にも、実はいろいろな思いが渦巻いています。歌を読む我々

としても、思いの重なりを大事にしたいです。

東 今回からジュニア世代の方が一般の方に混ざって選を受けました。選歌のときには知らなくて、後になってジュニアと分かりました。その一つ

風を食べ宙に飛んでくレジぶくろ一枚五円のお金にげる
神奈川 渡邊 洵

現在九歳の人です。今年、レジ袋が有料になりましたが、風に飛んでゆく袋を見てお金が逃げてゆくとした発想がウイットに富んでいます。時事的なものを非常に自在に詠んでいて、子どもの作品とは思わなかったのでビックリしました。

坂井 世慣れた人があえて詠んでる歌にも見えませんね。環境保護の歌はよくあるのですが、ここまですっきり歌えるのは珍しいです。

東 「宙に飛んでいく」の「宙」が宇宙の中です。坂井 スケールが大きい。

東 宇宙を汚しちゃダメだよという気分ですね。最後に一首、私が秀作に採った歌ですけど

自転車に乗れざりし母が自転車を押して来る
夢雨に濡れつつ
岡山 木下妙子

自転車の乗れなかったお母さんが夢の中では自転車を押している、しかも雨に濡れているということでお母さんは頑張っていた、無理していたんじゃないかという思いを感じました。

坂井 愛情の形ってとても複雑なんですけど、こういった夢の中の姿で象徴的に歌われることは良いですね。この歌も深いところに触れています。

(二〇二〇年十二月十二日、NHK学園にて)



近藤芳美賞 「胸像」

兵庫 高山 葉月

白百合になれないけれど聖水で十字架をきる日曜の朝
土を捏ね愛する人の胸像を創るようなり愛することは
私の胸像創りたる人のアトリエにある他の胸像

さりさりと清姫のごと蛇と化す感覚を知る私の身体
静脈の模様の大石ならば鑿のみでざっくり傷つけていい

どの角度からも見えない「接吻」が美しきことロダンは知りぬ

抱擁のために捻った背の螺旋 天まで届く階段となれ

私の内臓食らう蛆つきのトランジ像を免罪符にす

裸婦像は蹲りたり浮き上がる背骨に意志の強さを秘めて

月明かり吸わせばワルツ踊り出す彫刻の影そより佇む

心臓のあたりを篋へらで削りとり翡翠の石を埋めたくなる夜よ

駒鳥の卵の色の小箱なら入れてもいいよ我の心臓

完成をすることはない眼裏に君の胸像創り続ける

石膏で固められたら私は鶴の形をしているでしょう

死後土に還るのならば君の手で激しく捏ねよ我を再び

選者近詠作品とメッセーヂ

(敬称略 五十音順)

栗木京子

四つ星の囲むちひさな菱形が蟹座にありて春の入り口
麦星よ狩の民には近く見え海の民には遠く見えしか

佐伯裕子

新型コロナは奇妙な隣人 凡庸な風邪ふうじやの顔もて忍びより来る
空っぽの映画館を思い浜辺を思いモロッコエンドウにポン酢たらしぬ

篠 弘

弱りくる視力を庇かばひまばたくに白樺の幹が近づきくる
転がれるシャープの芯を拾はむと人差し指の爪先なむる

土屋文明は一八九〇年に生まれ、百歳の天寿を全うした歌人です。歌集『山下水』に「垣山になびく冬の霞あり我にことばあり何か嘆かむ」という歌があります。太平洋戦争敗戦直後の困難の中で「美しい山河があり、自分には言葉がある。何を嘆くことがあろうか」と自らを奮い立たせている歌です。

コロナ禍の日々の折々に、私はこの一首を思い出しました。歌の言葉を支えにしてこの苦況を乗り切ってゆければ、と願っています。

栗木京子

大学生であった私どもに、亡き山下陸奥氏は述べられた。当初の十首は捨て、十一首目からが自分の歌になる。常識的な域を超えたものが生まれてくるという格言めいた批評に打ちのめされた。窪田空穂氏は、自然詠より人事詠が難しいと言われたが、要は自分独自の実情実感を数多く詠めという提言であろう。各自にとって多難であった一年を振り返り、詠むべきテーマが沢山あるはずである。

篠 弘

近藤芳美賞の選にあたって

佐伯裕子

初めて近藤芳美賞の選考に携わって、とても緊張しました。毎年、優れた受賞作を生み出している賞の選考です。投稿作品の前に、思わず身が引き締まったことを覚えています。読みはじめたら、十五首は作品を知るうえで適量の歌数でした。でも、数篇に絞ってからは迷いに迷いました。

この賞には、忘れられない思い出があります。平成二十五年に岡井隆選者賞表彰され、さらに、二十八年に再び同選者賞になった萩原慎一郎さんのことです。歌集『滑走路』を出版された二十九年に、三十二歳で亡くなりました。歌集名は、初めて受賞した時のタイトルです。私は、授賞式で恥ずかしそうに立っている萩原さんに「おめでとう」と声をかけました。隣には、これからの期待する岡井さんの嬉しそうな笑顔がありました。萩原さんにとって晴れ

がましい日だったのでしよう。だが刊行された歌集には、「頭を下げて頭を下げて牛丼を食べて頭を下げて暮れゆく」など、苦しい歌が並んでいたのです。

萩原さんを二度も選者賞に選んだ岡井さんは、社会に押し潰されそうな、若い歌に注目されたにちがいありません。そのことは、かつての近藤芳美自身の選歌にも通じるものでした。少々乱暴な歌でも、難解な歌でも、ひたむきに社会に向かう歌に着目しておられました。

今年度の近藤芳美賞は、高山葉月さんの「胸像」に決まりました。濃厚な相聞歌ですが背後にキリスト教の世界が広がっています。このようなテーマと重厚な言葉の連なりは、現代に対峙するものと思われまます。反現代の相聞歌のもたらす力が感じられました。

死後土に還るのならば君の手で激しく捏ねよ
我を再び

「君」は「神」であったのか、という読後の印象は強烈でした。

篠弘選の選者賞は田村美智子さんの「青き地球」です。

使用済みの核燃料の捨て場所が地球の何処にあるといふのか

体温を越ゆる暑さと線状の降水帯に怯えしこの夏

みずみずしかった青い地球を破壊するのは人間自身。地球破壊を嘆く一連です。率直な言葉が力をもっていました。

栗木京子選の選者賞は前畠一博さんの「あの日から十年目」です。「あの日」は東日本大震災の日を指しています。

シヨールーム壊れしままの販売店 大熊・双葉の止まりし時間

もつと見ておけばよかつた海になる前のふるさとあの街のこと

「腹水」のように溜まる汚染処理水の歌もありました。

この一連も現代日本が直面する危うさを、静かに摘発するものでした。

私が選者賞に押した大甘さんの「冷静の祭」については、選評に詳しく記しました。何気ない日常をコロナ禍を含む不穏な社会に沈めてうたった一連です。

いずれも、殻に籠もらず、社会に開かれた連作といえるでしょう。今年度の投稿歌は、不穏な時代にコミットする、力強い作品が多かったです。選考の過程で、殻に籠もりがちになった私自身に気づかされました。そのことは私の収穫でもありました。



中央:近藤芳美 右:岡井 隆 NHK学園短歌講座開講の頃

第22回 NHK全国短歌大会「特選作者の横顔と選者からのメッセージ」

令和3年1月23日発行

編集・発行 NHK全国短歌大会事務局 ©2021 NHK・NHK学園